

[001]障害史研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2740985>

出版情報：障害史研究. 1, 2020-03-25. Faculty of Social and Cultural Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

活動報告

〔1〕メンバー

○研究代表者

高野 信治（九州大学比較社会文化研究院・教授）

○研究分担者

有坂 道子（京都橘大学文学部・教授）

大島 明秀（熊本県立大学文学部・准教授）

小林 丈広（同志社大学文学部・教授）

小山 聡子（二松学舎大学文学部・教授）

鈴木 則子（奈良女子大学生生活環境科学系・教授）

瀧澤 利行（茨城大学教育学部・教授）

中村 治（大阪府立大学人間社会システム科学研究科・教授）

東 昇（京都府立大学文学部・准教授）

平田 勝政（長崎ウエスレヤン大学現代社会学部・教授）

福田 安典（日本女子大学文学部・教授）

藤本 誠（慶應義塾大学文学部・助教）

細井 浩志（活水女子大学国際文化学部・教授）

丸本 由美子（金沢大学法学類・准教授）

山下 麻衣（同志社大学商学部・准教授）

山田 巖子（論文は山田巖子）（弘前大学人文社会科学部・教授）

山本 聡美（早稲田大学文学学術院・教授）

吉田 洋一（久留米大学文学部・教授）

○研究協力者

赤司 友徳（九州大学大学院医学研究院・学術研究員／医学歴史館学芸員）

クウィーラ, ダーヴィト＝ドミニク（CHWILA, David Dominik）（九州大学大学院地球社会統合科学府・

博士後期課程）

高久 彩（九州大学大学院地球社会統合科学府・博士後期課程）

〔2020年3月現在〕

〔2〕活動記録

○本科研・障害史研究会

・第1回研究会

2019年7月6～7日、九州大学伊都キャンパス

(1) 報告

主題「自分の仕事と本科研テーマへの取り組み」
東昇（京都府立大学）、中村治（大阪府立大学）、
小林丈広（同志社大学）、細井浩志（活水女子大
学）、藤本誠（慶應義塾大学）、小山聡子（二松

学舎大学）、CHWILA, David Dominik（九州大
学）、山田巖子（弘前大学）、吉田洋一（久留米
大学）、福田安典（日本女子大学）、有坂道子（京
都橘大学）、赤司友徳（九州大学）、平田勝政（長
崎ウエスレヤン大学）、高久彩（九州大学）、瀧
澤利行（茨城大学）、山下麻衣（同志社大学）、
高野信治（九州大学）⇒《研究紹介》参照

- (2) 打ち合わせ (運営の方針・計画)
- ・第2回研究会

2020年3月21～22日、日本女子大学目白キャンパス新泉山館→延期

○学会報告

- ・2019年5月18日、第120回日本医史学会総会、愛知県産業労働センター・ウインクス愛知、鈴木則子「信濃国小諸白倉松軒信煥・加川隆礼兄弟の産科術(回生術)記録」概要：近世の産科手術(回生術)記録史料に基づいて、施術の実態と産科医の意識について論じた。
- ・2019年6月22日、早稲田大学美術史学会2019年度総会、早稲田大学、山本聡美「鬼神道から阿修羅道へ——辟邪絵再考」概要：従来、辟邪(疫病神など人間に害をなす悪鬼の退治)の主題を表すと解釈されてきた表題作について、五道説に基づく「鬼神道」を表すものであることを明らかにした。
- ・2019年6月30日、第70回日本東洋医学会学術総会・養生シンポジウム(市民公開講座)「養生を知り、現代に活かす」、京王プラザ(東京)、瀧澤利行「日本における養生論の文化と現代生活」概要：標記シンポジウムのシンポジストとして、日本における養生論の思想と文化の変遷を中国養生論との比較にもとづきその特徴を考察し、現代社会における養生思想の意義を論じた。
- ・2019年9月28日、2019年度台湾醫學史學會、台湾大学医学部講堂(台北)、瀧澤利行(特別講演)「日本における高齢者介護の変遷とその課題」概要：標記学会の招聘によって、特別講演として日本における高齢者介護の歴史の変遷を概説し、その特徴と近代以降の西洋医学と社会福祉思想のもとの高齢者介護の特徴と課題を検討した。
- ・2019年10月10日、Premodern Japanese Studies Conference (PMJS 2019)、カナダ・マギル大学、山本聡美「五道説から六道説への転換——中世六道絵における阿修羅図像の成立」概要：中世日本で制作された六道絵の図像構成の変化を、内乱や疫病の流行という視点から分析した。
- ・2019年10月19日、日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会、長崎大学文教キャンパス、平田勝政「優生保護法下の障害者への優生手術に関する研究交流(2)」⇒研究短報参照
- ・2019年11月3日、第84回日本健康学会総会連携研究会セミナー3「エコヘルス・健康観の変遷」、長崎大学医学部坂本キャンパス、福田安典「環境文学としての日本古典文学研究」
- ・2019年11月30日、第66回日本学校保健学会学術大会・メインシンポジウム「融合学術領域としての学校保健学の可能性——多様な学問領域、理論と実践を串刺しする」、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)、瀧澤利行「社会科学としての学校保健学」概要：標記シンポジウムのシンポジストとして、医学・公衆衛生学や教育学の一環としてとらえられる学校保健学の社会科学としての側面とその学術的特徴を論じた。
- ・2019年12月1日、歴史科学協議会第53回大会、明治大学駿河台キャンパス、高野信治「近世日本の国家・社会と〈障害者〉」概要：和歌山藩田辺領を素材とし、貧窮者・常病者に対する領主や地域社会の救済を軸に、障害者の実相解析を試みた。
- ・2019年12月8日、日本仏教総合研究学会第18回大会、大谷大学本部キャンパス、藤本誠「『東大寺諷誦文稿』の再検討——病者(障害者)・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として——」⇒研究短報参照
- ・2019年12月15日、九州史学会、九州大学伊都キャンパス、CHWILA, David Dominik「江戸時代における障害や奇形の原因説——近世日本に特有な〈障害〉観の構築性と時代性を探って——」
- ・2019年12月15日、九州史学会、九州大学伊都キャンパス、高久彩「明治初期の博物館における「埋蔵物」の収集——人骨の取扱に関する「博物館」と教育博物館との比較を通じて——」概要：埋蔵物の調査方法・収集方法・評価基準の観点から「博物館」(東京国立博物館の前身)と教育博物館(国立科学博物館の前身)を比較し、『埋蔵物録』(東京国立博物館所蔵)の分析を通じて「博物館」の特殊性を検討した。

- 2019年12月22日、日本文化政策学会、さいたま市文化センター、高久彩「明治初期の「博物館」における「埋蔵物」の収集——人骨の取扱いに関する教育博物館との比較を通じて——」
- 2020年1月25日、日本医史学会1月例会、順天堂大学医学部10号館、鈴木則子「江戸時代の医療とジェンダー～「女医師」をめぐる」概要：江戸時代の女性医師の内、東日本で「女医師」と呼ばれ、従来の研究史の中で墮胎を生業とする子おろし婆とみなされてきた女性たちについて、その医

療活動実態を一次史料から再検討した。

- 2020年2月29日、Columbia University-Waseda University Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies、米国・コロンビア大学、山本聡美“A journey to religious awakening: illnesses and pilgrimages depicted in medieval Buddhist paintings.” 概要：日本中世浄土教美術において、病、戦、災害による荒廃した環境がどのように描かれ、その図像はいかなる機能を発揮したかについて考察した。

○研究会報告

- 2019年6月16日、シンポジウム「幽霊の歴史文化学ふたたび」(小山研究室・松本研究室主催)、二松学舎大学、「鼎談東雅夫×小山聡子×松本健太郎」。
- 2019年7月7日、公開シンポジウム「ジェンダー史から考える女性医療従事者」科研基盤研究A「ジェンダー視点に立つ「新しい世界史」の構想と「市民教養」としての構築・発信」および科研基盤研究A「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」の共催、東京大学東洋文化研究所、鈴木則子「江戸時代の女性医師と婦人医療～近代日本医療環境の前提として」概要：江戸時代に女性医師がすでに様々な地域で活躍していたことを具体的な事例をもとに明らかにするとともに、その背景として女子の教育機会が充実していたことを指摘した。
- 2019年9月7日、古代武蔵国研究会、ふるさと府中歴史館、藤本誠「『日本霊異記』の中巻九縁についての基礎的考察——古代地方寺院論の再検討

——」⇒研究短報参照

- 2019年11月23日、九州史学研究会近現代史部会、福岡市博物館、高久彩(九州大学)「明治初期の博物館における「埋蔵物」の収集——人骨の取扱いに関する「博物館」と教育博物館との比較を通じて——」
- 2019年12月17日、谷三山研究会(奈良県立大学)、小林丈広「猪飼敬所書簡から見た谷三山研究の可能性」
- 2020年2月15日、「近世・近代の日本における「行き倒れ」とその救済の歴史的特質の究明」研究会(研究代表者・藤本清二郎)、部落問題研究所(京都市)、高野信治「〈障害者〉とその行方：地方(じかた)記録による実態研究の試み」概要：前近代での障害史研究における史料希少性の問題克服を目的に、地方記録の活用を通じた障害者の実相解析を試みた。

○講演

- 2019年4月12日、「総合地球環境研究所第1回エコヘルス・Open TS 共催セミナー」、総合地球環境研究所、中村治「岩倉の精神医療」
- 2019年4月20日、家族歴史フェア2019、末日聖徒イエス・キリスト教会・福岡ワード、高野信治「歴史に見る家族の姿」
- 2019年6月17日、「SSH(スーパーサイエンスハイ

スクール) 学校設定科目における課題研究・探究活動」、長野県立飯山高校、福田安典「江戸時代のガーデニング～文系の読書・理系の読書」(高校2年生189名対象)

- 2019年9月1日、「まんでがん源内塾」、さぬき市平賀源内先生記念館、福田安典「平賀源内と江戸落語」

- 2019年11月10日、「満徳寺報恩講・講演」、同寺、小山聡子「親鸞聖人の教えとその受容」、11月23日、「徳本寺報恩講・講演」、同寺、小山聡子「親鸞聖人の教えはいかに受けとめられたか」概要：浄土真宗の開祖とされる親鸞の教えが、その後どのように伝えられ、信仰されたのかを話した。
- 2019年11月14日、咸宜園教育研究センター主催公開講座「江戸時代の私塾と教育者」（全6回のうち）「亀井南冥・昭陽と蜚英館」、日田市民文化会館、吉田洋一「福岡藩の儒医学者亀井南冥・昭陽父子の思想と教育について」概要：同藩出仕以前の私塾・蜚英館を中心に講じた。
- 2019年12月14日、「北國新聞社・金沢大学連携市民公開講座「金沢学」第9回」、北國新聞会館赤羽ホール、丸本由美子「加賀藩の御救：「福祉」以前の災害復興」
- 2019年12月21日、「ヒストリーカフェ」、立教大学池袋キャンパス、中村治「京都癡狂院と岩倉」
- 2020年2月7日（金）、一般社団法人日本能率協会主催「一隅会」（経営哲学懇話会）山本聡美「仏教美術の光と闇——絵画から中世日本を読みとく」概要：中世絵画に描かれた疾病や障害の表現について、その背景にある因果応報観、中世説話文学とのかかわりについて講じた。
- 2020年2月29日、第9回「歴史から現在を考える集い」（日本史研究会）、平安女学院大学京都キャンパス、高野信治「障害認識を遡る」→延期

○調査

- 2019年7月5日、福岡県立図書館、障害・病・行方不明に関する触、孝子褒賞に関する史料収集、天保期の小倉藩国作手永大庄屋日記、友枝手永大庄屋日記、福岡藩の「孝義録」43.44、「筑前国孝子良民伝」などの調査、東昇
- 2019年7月12日、京都大学附属図書館・法学部図書館、被差別民・福祉法制関連文献、丸本由美子
- 2019年7月23日、大阪府立公文書館、戦後の大阪身体障害者公共職業補導所の資料を閲覧・撮影、山下麻衣
- 2019年8月13～15日、田辺市立図書館、和歌山藩田辺領・田所家文書等調査、高野信治
- 2019年8月25～28日、宮古島・沖縄調査、かつての宮古島・沖縄における精神障害者・ハンセン病患者などの処遇について、中村治
- 2019年8月27～30日、公益財団法人宇和島伊達文化保存会調査福田安典他1名
- 2019年9月9～13日、新潟県立図書館・文書館、新潟県域の幕領・諸藩の障害関連データ調査、高野信治
- 2019年9月26～30日、熱田神宮・熱田神宮宝物館・熱田文庫で巡検・史料収集、伊勢神宮・神宮徴古館・神宮農業館・神宮美術館巡検、伊勢市立図書館史料収集、京都御所巡検、京都大学附属図書館史料収集、高久彩
- 2019年10月20～21日、法制史学会近畿部会参加、京都大学附属図書館・法学部図書館、被差別民・福祉法制関連文献、丸本由美子
- 2019年11月30日、米国・ニューヨーク・John Weber コレクション（日本中近世絵画）調査、山本聡美含め3名、概要：本科研に関連しては、近世～近代幽霊画の熟覧。
- 2020年1月26～27日、法制史学会近畿部会参加、京都大学附属図書館・法学部図書館、法継受・救貧・刑事法制関連文献、丸本由美子
- 2020年1月31日～2月2日、蓬左文庫典籍研究会・上代文献を読む会に参加。蓬左文庫、熱田神宮宝物館等にて史料調査、資料収集、藤本誠
- 2020年1月31日～2月3日、国立国会図書館、神奈川県立図書館、日本の優生学（その思想・運動・政策）と障害者の人権の歴史的関係性を解明するため、主に海野幸徳関連資料の調査・収集、平田勝政
- 2020年2月1～2日、法制史学会東京部会参加、江戸東京博物館石井良助文庫目録調査、丸本由美子
- 2020年2月14～15日、部落問題研究所（京都市）、行き倒れ者関連の文献調査、赤司友徳、高野信治
- 2020年2月20日、3月2, 3日、国立劇場伝統芸能

情報館、障害者が登場する歌舞伎・文楽の上演記録収集、鈴木則子

- 2020年2月21～22日、租税判例研究会参加、明治大学博物館・国立公文書館・国立国会図書館、刑事法制・福祉法制関連文献、丸本由美子
- 2020年3月5～8日、沖縄調査、かつての沖縄に

おける精神障害者・ハンセン病患者などの処遇について、中村治

- 2020年3月9～10日、京都大学附属図書館・法学部図書館、精神衛生・刑事法制関連文献、丸本由美子

[3] 研究短報

○有坂 道子

- 近世期の「障害」の問題に関する知見を得るため、関連する基本図書を購入。
- 本科研の研究会（19年7月）と歴史科学協議会第

53回大会（19年12月、高野報告「近世日本の国家・社会と〈障害者〉」）に参加。

- 近世の随筆類からの事例収集。

○大島 明秀

- 宝暦年間に熊本藩第6代藩主細川重賢の命で催された薬物会の出品目録である村井琴山「熊府薬物会目録」写本に着目し、諸本の所在調査、資料入手、翻刻を進めている。日本古典籍相互目録データベースによると、国会図書館・岩瀬文庫・乾々文庫に所在が確認できるが、まずは国会図書館本を入手し、目下、翻刻を進めている。なお、研究誌『障害史研究』第2号に寄稿するべく、翻刻が終わり次第、諸本との校合や注釈をつける作業を進める予定である。これによって、これまであまり解明されていない「薬物会」の様相と、熊本地域における公的な医療状況の一端あるいは具体的な薬品・生産地などが明らかになることが期待される。
- 熊本市に所在する後藤是山記念館において資料調査を行った。まず、幕末熊本藩領の医師であった城鞠洲の医学・診療日記「鞠洲医事文稿」写本を撮影した。天然痘や麻疹などの伝染病や各種疾病

の診療記録が、鞠洲の医学観を交えながら記されている本資料についても、現在翻刻に取り組んでいる。翻刻が終わり次第、手元にある架蔵本と校合する予定である。熊本地域における民間医療の実情解明が期待される。

- 鞠洲が熊本藩の医師と連れ立って旅行に行った時の紀行文「蹴洲先生宇土海岳紀行」についても撮影を完了した。今後翻刻に従事する見込みであるが、資料提供によって医師の日常の一端が窺い知れることが期待される。
- 平成31年10月31日、久留米大学・吉田洋一氏と同大学文学部（日本史研究室）において、科研内で要請されている小グループの創設およびその研究内容についてと話し合った結果、儒医研究を進めたい吉田氏と、熊本藩の医学・医療を究明したい大島との間で、熊本藩医・村井琴山の資料・情報を共有しつつ研究を進めていくことで話がまとまった。

○小林 丈広

- 以前より関わっている留岡幸助の研究のため、北海道遠軽の家庭学校を訪問し、日記や機関誌など

の調査を行った。

- 地方史研究協議会においては、長らく近代盲聾教

育関連史料の整理に携わってこられた方に研究発表を依頼し、京都大会で報告していただくことができた。

- 以下、年度末に加筆する。年が明けてから COVID-19

をめぐる騒動を見聞きし、かつて小著『近代日本と公衆衛生』で提示した問題が現在も古びていないことを実感した。本研究でも、あらためてこの問題を検討課題のひとつに組み込むことにしたい。

○小山 聡子

- 書評「常光徹『魔除けの民俗学』」を KADOKAWA 文芸 WEB マガジン『カドブン』（2019年7月）に執筆。
- 来年度の秋ごろに出版予定の『もののけの日本史』の執筆をしている。『もののけの日本史』では、「物狂」や「神経病」の歴史についても執筆する予定である。今年度は、古代から近現代までの、病気治療に関連する研究書を中心に購入。
- 病気治療と呪術に関する論文集、小山聡子編『前近代日本の病気治療と呪術』（思文閣出版、2019年3月）を出版予定である。前近代日本において病

気治療が呪術とどのように関わってきたかを論究する論文集となっている。

- 法蔵館の『ひとりふたり…』に連載「モノノケ時代の親鸞聖人」と連載「親鸞聖人の時代の往生際」を執筆。
- 森正人『古代心性表現の研究』（岩波書店、2019年）の書評を執筆した。日本文学協会の『日本文学』に掲載予定。
- 病因論に関わる文献リストの作成のために、現在、幅広く文献収集の作業中。

○高野 信治

- 近世・江戸時代における障害者について、地方記録をはじめとする諸記録から、その実相の解析ができないか、模索中。

- 寄稿「『障害史学』の構築——「普通」という認識の相対化を期して——」九州大学地球社会統合科学府広報誌『クロスオーバー』40、2020年3月

○瀧澤 利行

- 論文「人々を守る法律と制度」丸井英二編『わかる公衆衛生学たのしい公衆衛生学』弘文堂、2020年1月
- 論文「日本における学校保健の変遷と今後の展望」『公衆衛生』第83巻6号、医学書院、2019年6月
- 論文「研究デザインと研究方法——在宅ケアの研

究に取り組むための基本的姿勢——」『日本在宅ケア学会誌』第22巻2号、日本在宅ケア学会、2019年3月

- 論文「学校保健安全活動における実践倫理的課題——学習権保障と健康権保障の関係から——」『公衆衛生』第83巻3号、2019年3月

○東 昇

- 7月研究会で報告した、近世京都の町触にみる不斗出（行方不明捜索）史料収集を、孝子・人相書に拡大した。鬼頭宏「迷子と行方不明：18世紀京都の人口現象」（『人口学研究』9（0）、1986）の先行研究が、天明期までを対象としており、報告し

た慶応・明治初年に加えて、寛政期以降の収集を開始し、近世の個人認識・把握について検討。また論文では、村民褒賞過程を分析したが、村役人・村人が個人の何を認識して、領主が褒賞の対象にしていくか、障害と比較可能と考える。

- ・障害史の史料論、生瀬克己『近世障害者史料関係集成』を対象に、どのような史料を収集しているか、基準・方向性を分析途中。これまで研究実績のある天草、長崎、伊予大洲藩、丹後田辺藩などの史料「天領天草大庄屋木山家文書御用触写帳

等を調査中。

- ・論文「近世後期天草郡高浜村における村民褒賞と文書群の形成」『京都府立大学学術報告（人文）』71、2019年

○平田 勝政

- ・報告概要「優生保護法下の障害者への優生手術に関する研究交流（2）」概要：話題提供者として、1954年の鳥取県での「精神薄弱」者断種（去勢）事件に注目して、①事件の経過と結末（1954.6～12）に関するより詳細な事実確認、②人権侵犯問題としての事件をめぐる鳥取県法務局（法務省人権擁護局）と鳥取県衛生部（厚生省公衆衛生局）の対立とその論争点、③事件をめぐる世論の動向と優生思想克服の遺産（糸賀一雄・式場隆三郎のヒューマニズムに依拠した批判意識）、について報告した。
- ・優生思想と関連して、近世と近現代を串刺しにする分析可能なキーワードはないものかと模索中。目下、西田知己氏の著作『「血」の思想』『血筋はそこから始まった』に学びながら、ファシズム期に顕著な「血」の浄化思想（祖国・民族の「血」

の浄化）との歴史的関係性を解明できないものかと思案中（関連：書評2）。ご教示、よろしく。

- ・研究分担テーマである「障害者の人権」に関して下記の書評をおこなった。
 - （書評1）清水寛著『太平洋戦争下の全国の障害児学校：被害と翼賛』『障害者問題研究』第47巻第3号、2019年11月
 - （書評2）スザンヌ E・エヴァンス著／黒田学・清水貞夫監訳『障害者の安楽死計画とホロコースト ナチスの忘れ去られた犯罪』（クリエイツかもがわ、2017年）、『人間発達研究所紀要』第32号、2019年12月
- ・『編集復刻版 優生保護法関係資料集成』第1回配本（第1～3巻、六花出版、2019年12月発行）を購入。

○福田 安典

- ・著書『古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。』（文学通信、2019年、共著）
- ・論文「上方論争史を考えるために——『菓選』『非菓選』を中心に——」（『上方文芸研究』第16号、

2019年6月、査読有り）

- ・論文「神の国のほとりの方丈——『方丈記』異本——」（『近世文芸』110号、2019年7月、査読有り）

○藤本 誠

- ・論文「『東大寺諷誦文稿』「釈迦本縁」「慈悲徳」についての基礎的考察」（『水門』29号、2019年12月）
- ・学会報告「『東大寺諷誦文稿』の再検討——病者（障害者）・路辺遺棄者・貧窮者等を中心として——」概要：本報告では、『東大寺諷誦文稿』の史料的特質として、第一に、A. 父母追善供養法会、B. 調庸運脚夫をも含む路辺遺棄者・貧窮者の供養

法会という二系統の法会の内容が記載されたこと、第二に、古代日本の地域社会の法会の場合において、①身体的な疾患を伴う病者（障害者）が仏教的に救済される存在とする言説が語られていたこと、②路辺遺棄者・貧窮者等は村落レベルでは穢れとして排除される一方で、国郡レベルでは調庸運脚夫ともに救済対象として語られていたことなどを

指摘し、『東大寺諷誦文稿』が地域社会の仏教受容の具体相を反映した史料であることを明らかにした。

- 研究会報告「『日本霊異記』の中巻九縁についての基礎的考察——古代地方寺院論の再検討——」概要：本報告では、『日本霊異記』中巻九縁にみえ、多磨郡大領大伴氏の氏寺とされている寺院に「同僚」が関与していることを手掛かりとして、通説では氏の祖先信仰の場として「氏寺」とされている古代地方寺院に関わる史料を検討し、古代地方寺院には、複数の諸氏族が関与し、地域社会に即した機能を担うとともに地域秩序を維持する機能

を果たしていたことを指摘した。

- 文化宗教史グループの活動の一部として、古代・中世の疾病観の論文リストの第一段階を作成予定。また2月、『沙石集』・『東大寺諷誦文稿』などからの障害表現を含む古代中世仏教説話研究に関わる資料収集・情報収集・フィールドワークを実施。
- 2020年度は、『日本霊異記』や『東大寺諷誦文稿』の障害表現に影響を与えた中国仏教説話の構造と表現の分析を進め、中国文献からの影響関係と古代日本への障害表現の受容のあり方について考えを深めていきたい。

○丸本 由美子

(1) 会議録

丸本由美子・雨宮靖樹・清水大輔「再犯防止推進に係る機関連携推進会議」『金沢法学』62 (1) 概要：2016年に成立した「再犯の防止等の推進に関する法律（平成28年法律第104号、以下「再犯防止推進法」と略記する）」は、受刑者を立ち直らせ、再犯の道に踏み込むことのないように生活を再建せしめることにより、効果的に犯罪の発生件数を抑制し、安心・安全な社会の実現を目指すことを理念としている。その実現のためには、国－地方自治体－民間の三者の連携といった単純な構図に止まらず、異なる省庁間や、同じく民間と位置づけられていても弁護士と保護司と元受刑者を雇用する各種事業所といった、多種多様な組織・人々同士での多元的な相互理解と協力関係が必須となる。それらの基礎を構築するために、2019年1月28日、再犯防止推進法関連業務を担う石川県内の各種機関の担当者や個人を対象として、「再犯防止推進に係る機関連携推進会議」が開催された。丸本は、三部構成の同会議のうち、第二部の基調講演を担当し、「加賀藩における立ち直り支援」と題して90分の講演を行った。これは、江戸時代に加賀藩が講じていた困窮者扶助・災害被災者への支援等の救恤に関する諸政策が「いかにして機能不

全を起こしたか」、つまりは失敗の歴史を知ることが上記の再犯防止推進法の理念実現のための有益な示唆となる、との着眼点から、金沢少年鑑別所所長（当時）の清水大輔氏、同所統括専門官の雨宮靖樹氏の依頼を受けて行ったものである。本稿では、基調講演の内容をベースに若干の加筆を行った講演録をメインに、第一部「『再犯の防止等の推進に関する法律』及び『再犯防止推進計画』についての説明」、第三部「法務省関連機関による再犯防止推進施策の取組状況の説明」についてもその内容を簡略ながら記述した。なお、本稿は金沢大学学術リポジトリ KURA https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=49004&item_no=1&page_id=13&block_id=21）に掲載されているので、関心をお持ちくださった方はご一読いただければ幸いです。

(2) 編集

- 『金沢法学』62 (1)
- 額定其勞・佐々木健・高田久実・丸本由美子 法制史学会70周年記念若手論文集『身分と経済』、慈学社出版
- 2019年度は時間と体力と労力の大半を編集業務に費やした感がある。

○山下 麻衣

(1) 障害の歴史に関する業績

- ①坂井めぐみ (2019) 『「患者」の生成と変容——日本における脊髄損傷医療の歴史的研究』晃洋書房の書評を、週刊書評紙図書新聞編集部から依頼され執筆し、図書新聞3437号 (2020年2月29日) 第4面に掲載された。http://www.toshoshimbun.com/books_newspaper/ この本は、中途障害である脊髄損傷を題材に、脊髄損傷者に必要な医療がどのような経緯で形成され展開してきたのかという問いに対して、社会情勢、医療制度、法律、生活を歴史的に検討することで、患者としての脊髄損傷者の社会の中での位置づけの変容を描こうとしている。この本を読んだ上で、評者は、患者としての脊髄損傷者の変容を読み解く上で、脊髄損傷者の生活基盤を支えるための制度がどのように整備されてきたのか、脊髄損傷者がその制度を利用するにあたってどのように情報を得ていて、いかに制度を利用してきたのかなど、制度の受容と受容後の変化について、さらに明らかにする必要性を感じた。
- ②後藤基行 (2019) 『日本の精神科入院の歴史構造 社会防衛・治療・社会福祉』東京大学出版会の書評を社会経済史学会から依頼され、執筆した。2019年12月20日に先方に提出をした。この本は、20世紀初頭から後半期を分析期間として、なぜ、日本の精神病床数が世界各国に比して膨大であり続けているのか、さらには、患者がこれら病床で長期間入院生活をおくるといふ構造が生み出されたのかという問題意識に基づき、一次資料である行政文書、診療録、疫学調査個票を用いた緻密かつ手堅い実証を盛り込んだ研究成果である。評者は、本書から得た示唆を踏まえて、日本における精神病床の多さや長期入院の傾向を生み出す患者側と医療側の論理をより深く実証していく必要性を感じた。特に精神障害者を病院に囲い込むことを内容とした医療側の経営上の「うまみ」が存在していること、診療報酬制度と障害を持つ患者の生活

内容の関連性、精神障害者の場合、障害や社会経験の少なさによって交渉力及び資力等が不足し制度活用に至っていない実態があるなどをこの書評を執筆したことで知り得た。

- ③『社会経済史学事典』編集委員会から、2020年11月発行予定の『社会経済史学事典』のうち、看護師、助産師、保健師、女性を内容とする「看護と保健」の原稿を依頼され、2019年1月末に脱稿した。この原稿では近現代における看護師、助産師、保健師の役割の変遷を記述した。本科研との関連において、筆者は特に保健婦の歴史について、2020年以降、史料調査をし、分析をする必要性を再確認した。この原稿を執筆している過程で、戦時期に源流があり戦後も引き継がれたとされる保健婦駐在制度のもと、市町村で活躍している保健婦が障害を持つ人々を地域で見出し、医療サービスへの橋渡しや生活の援助を実践していた事例を多数知ることができたからである。

(2) そのほかの業績

- ①2020年1月に刊行される『同志社商学』71巻4号に、「1960年代日本におけるチームナーシング理論の展開と影響」という題目の単著論文を掲載した。本論文では1960年代の日本の病院で、看護婦の働き方の1方式であるチームナーシングの理論が流行した背景と実践の過程を明らかにすることを通して、この議論が日本の看護婦の働き方に与えた影響を考察した。なお、本論文は和歌山大学経済学部が主催した「第3回日本——クロアチア会議」(2019年9月9日開催)において、「日本におけるチームナーシング理論 需要の展開と実践」という題目での学会報告(英語)を活字化したものである。
- ②石井香江 (2018) 『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか 技術とジェンダーの日独比較社会史』ミネルヴァ書房の書評が『経営史学』第54巻第3号、2019年12月刊行、86-88頁に掲載された。

○山本 聡美

- 著書『中世仏教美術の図像誌——経説絵巻・六道
絵・九相図——』（吉川弘文館、2020年、2月）
- 論文「フリーア美術館所蔵「地藏菩薩靈驗記」第
一話の主題——女性の罪業としての嫉妬と諍い
——」（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第65
輯、2020年3月、査読なし）
- 論文「妙法蓮華経変相図」（静嘉堂文庫蔵）にみる
南宋時代寧波の信仰と社会」（『美術研究』第430
号、2020年3月、査読あり）